

みちびき あまねく

— 子育て支援施設と地域総合扶助の場の提案 —

0. はじめに

私は横浜市南区に生まれ育った。横浜市南区は、歴史的背景から治安が悪い印象が残るエリアがある。また、私の小学校・中学校の友人の中には、複雑なバックグラウンドを抱えた子もいた。そのことから、卒業制作では、まちのため、地域の人のための施設の計画を行いたいとまず考えた。様々な案が考えられる中で、私は、子育て中の家庭を地域で支援する施設「子育て支援施設」に着目をした。一人親世帯、生活困窮家庭、外国人親子の施設利用が少ない南区の現状から、子育て支援施設は、その役割だけでなく、生活に関わる支援も受けれる場でもあるべきなのではないかと考えた。今回、横浜市南区の地域特性から、子育て支援施設と地域相互扶助の場を計画する。子育て支援施設の利用が少ない家庭に着目をし、誰でも訪れやすく、多くの人に広く認知され身近な存在になる空間を提案する。

I. 複雑なバックグラウンドを抱えたまち



I-1 過去と印象

関東大震災や空襲により、街は甚大な被害を受けた。その影響もあり、一部地域は違法飲食店・風俗店が増加し、麻薬の温床となった過去を持つ。今は地域住民や行政の取り組みによって、まちは変化したが、今でもその背景から、悪い印象を持たれる地域がある。

I-2 市街化したことの課題

交通の利便性が高いことや生活インフラが充実していることもあり、南区の人口密度は、横浜市の中で最も高い。また、市街化したことによって一人当たりの公園面積が狭く、地域住民の交流の場、身近なオープンスペースが少なく、地域との交流が取りづらい。

I-3 新たな課題

南区は、外国人住民登録人口が高く、南区は人口に対する外国籍を持つ人の割合が高い。また、年少人口割合、単身世帯の割合、高齢化指数が高く、高齢化が進んでいる課題がある。

II. 子育て支援の現状

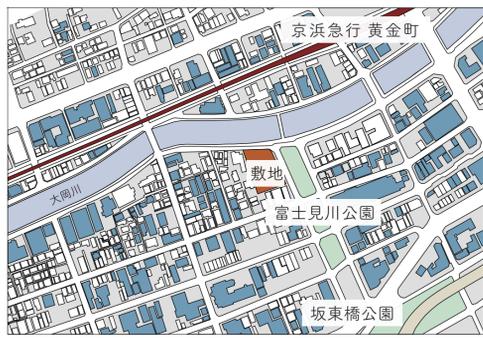
地域子育て支援拠点を中心に様々な子育て支援をおこなっているが、一人親世帯、生活困窮家庭、外国人親子など課題を抱えた親子の利用が少ない現状がある。



III. 川のコミュニティと密度の高いまち

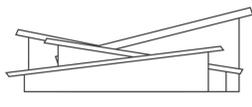
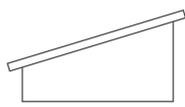
1. 川で繋がる計画敷地

まちの課題、子育て支援の現状から、新築マンションの建設が多く、外国人の住民が増加しているエリアを計画敷地にした。集合住宅が密集する場、区を横断する大岡川沿いに計画し、地域との繋がりを形成する。



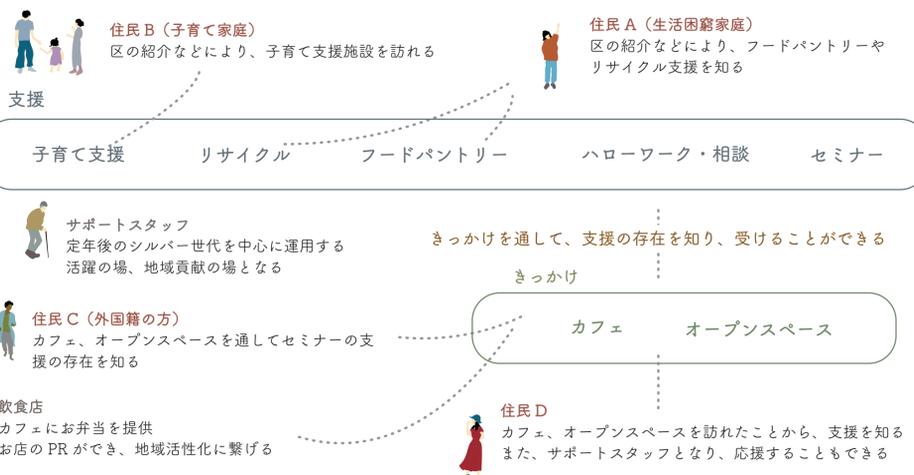
住所：神奈川県横浜市南区日枝町1丁目21-1
 ・敷地面積 1581㎡ ・建ぺい率 80%
 ・市街化区域 商業地域 ・容積率 400%

2. 密集するまちにゆとりを



IV. きっかけとつながる支援

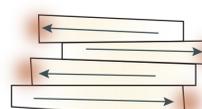
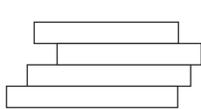
課題を抱えた親子は、子育てのことだけでなく、食事や衣服などの生活用品に困っていることがある。また、リサーチから、生活困窮家庭や言語の壁を持つ家庭の存在を知った。そのため、そのような生活に関わる支援と子育て支援施設があると利用する人が増えるのではないかと考えた。また、他の住民も利用できるオープンスペースも計画し、交流の場、情報が集まる場を計画する。その仕組みによって何かあったときに、応援をする側、受ける側になれるコミュニティを形成することができる。



V. 誘導される空間

初めて施設を利用する人の中には、入りづらいと思う人もいないか。また、支援を受けることに抵抗を持つ人もいないか考えた。そこで、視線・行動が誘導される空間を計画する。

1. 広がる空間



2. 伝う壁 湾曲な壁にし、視線・行動を誘導する



3. 導く屋根 縦に空間が広がり建空間の変化で誘導する



4. 内外をつなぐグリーンライン

